



二期目の抱負を語る木下真生会長

木下真生会長が再選される 日本塗装機械工業会

日本塗装機械工業会(CEMA)の「第38回定時総会」が6月20日開催され、木下真生会長(ランズバーグ・インダストリー㈱代表取締役社長)が再任されると共に甘利昌彦氏(旭サナック㈱代表取締役社長)と壺田貴弘氏(アネスト岩田㈱代表取締役社長)がそれぞれ副会長に再任され、新たに浮田二郎丸氏(パーカーエンジニアリング㈱代表取締役社長)が副会長に選出された。その再任に当たっての心構えを木下真生氏に語ってもらった。

——この二年間ご苦労さまでした。そして、さらにもう一期会長職を務められることになりましたが。

木下 いやあ、前期も大変なことになったなど覚悟していたんですが、会員企業みなさんの協力で乗り切れました。

——この二年間を振り返ってみていちばんやりたかったことは何でしたか。

木下 そうですね、CEMAという団体を産業界へさらに周知させるために何ができるか。すでに土台はできていますから、実施すべき目的と道筋を明確にしようと、そのロードマップを作成したんです。その中で大きなのが、会員の増強とCEMAホームページをもっと活発に生かすこと。担当者からいろいろなアイデアはあったんですが、いざ実行となると費用がかかる。会員企業のみなさんに相談したら幸い協賛いただけましたし、新規会員も増えたりし

て資金面は何とかクリアできて設計通りのフレームがつくれた。まず、アクティブメンテナンスグループ(AMG)を立ち上げて、会員各社のパソコン関連に強い担当者を推薦してもらい、アクティブメンテナンスグループパートナー(AMGP)に登録してもらおう。すでに30社は登録していただきましたが最終目標は全会員会社の70社です。AMGPの本部から関連情報等を流すと会員企業のAMGPが一斉にアクションを起こす仕組みをつくったんです。人間の体にたとえれば血管ができて、血が流れる道理です。折角、みなさんからの協賛金をいただいたのですから、単なる入れ物で終わらせたくはないという主旨です。

でも、今度はメンテナンス費用をどう調達するか。そこでCEMAのパナー広告と、「プチホープページ」を立ち上げて、会員各社に最新情報や技術を発信してもらい自社のPRに活用してもらおう。これは有料で。また会員が増えると、それに付随して事務作業も増えます。そこでネットバンキングシステムで、会費の収支をきちんと管理できる新会計システムの構築に、鋭意努力しているところです。

——二期目を見据えての抱負を。

木下 「塗装=3K」とよく言われポジティブな感じをどうしても持ちにくい。それを払拭(ふっしょく)したい。塗装の仕事にプライドを持ちましょう！と。CEMAのコンセンサスの一つです。すべての工業製品は塗装されて初めてFINISH(完成)ということになる。“塗装なくして製品なし”ということです。それと、日塗工さんや工塗連さん、パウダー協さんとの横の交流をお互いもっと強くしたい。CEMAでも新しくオートモーティブ協議会の活動が発足している。課題もありますよ。IPCO(国際工業塗装高度化推進会議)との関連づけとか、セミナーの開催テーマ・講師の選定など斬新(ざんしん)さが出せるかどうか、たとえばインクジェットとか。また、ものづくり懇談会のASTECへの出展、東京と大阪を結んでのサテライトなど、さらにCEMA存在の意義と価値を会員企業とスクラムを組んでアピールしたいですね。

——また、二年間期待しております。